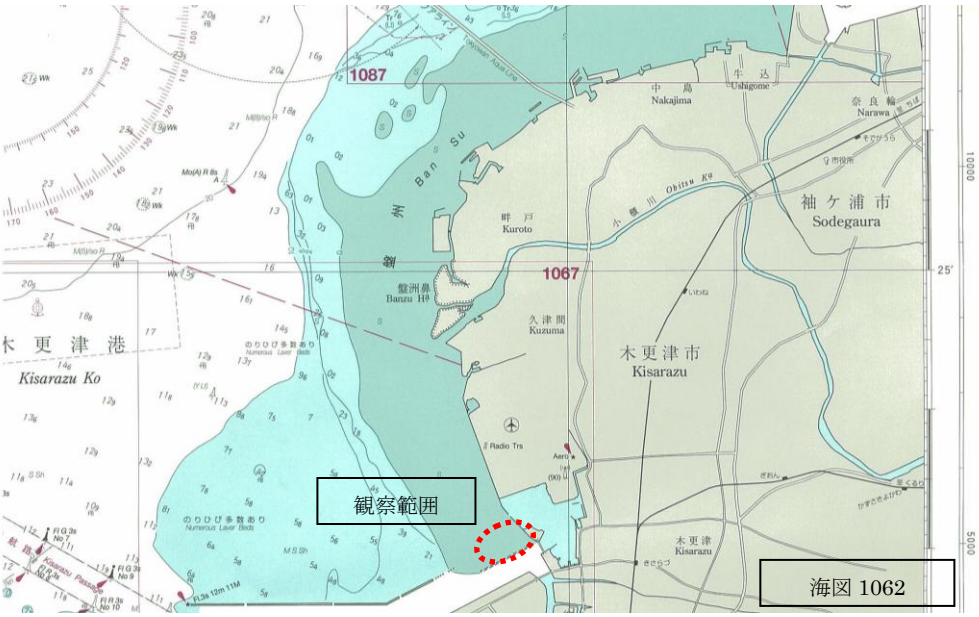
# 盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（東京湾活き活き研究会）
日時：2015 年 5 月 19 日（水）10:30-13:30　　干潮時刻　11:46　天気　曇
場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

これまで継続的に観察している木更津漁協の潮干狩り場に行きました。下図の赤い点線の範囲（ルートは赤線で表示）を歩き、所々で熊手、手網、シャベルを用いて底生動物の状況を確認しました。低気圧の通過による雨が朝方まで残り、潮が引かない可能性がありましたが、昨年よりも沖合まで干出したので、岸から 950m位の所まで歩くことができました。



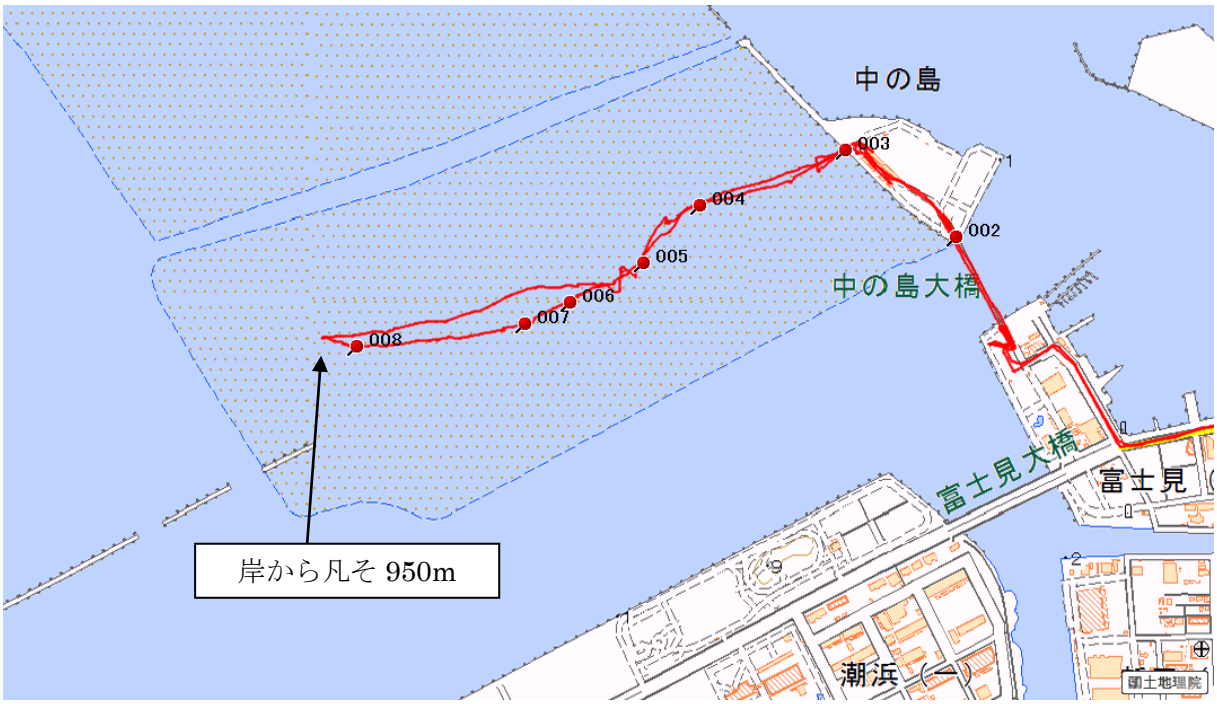



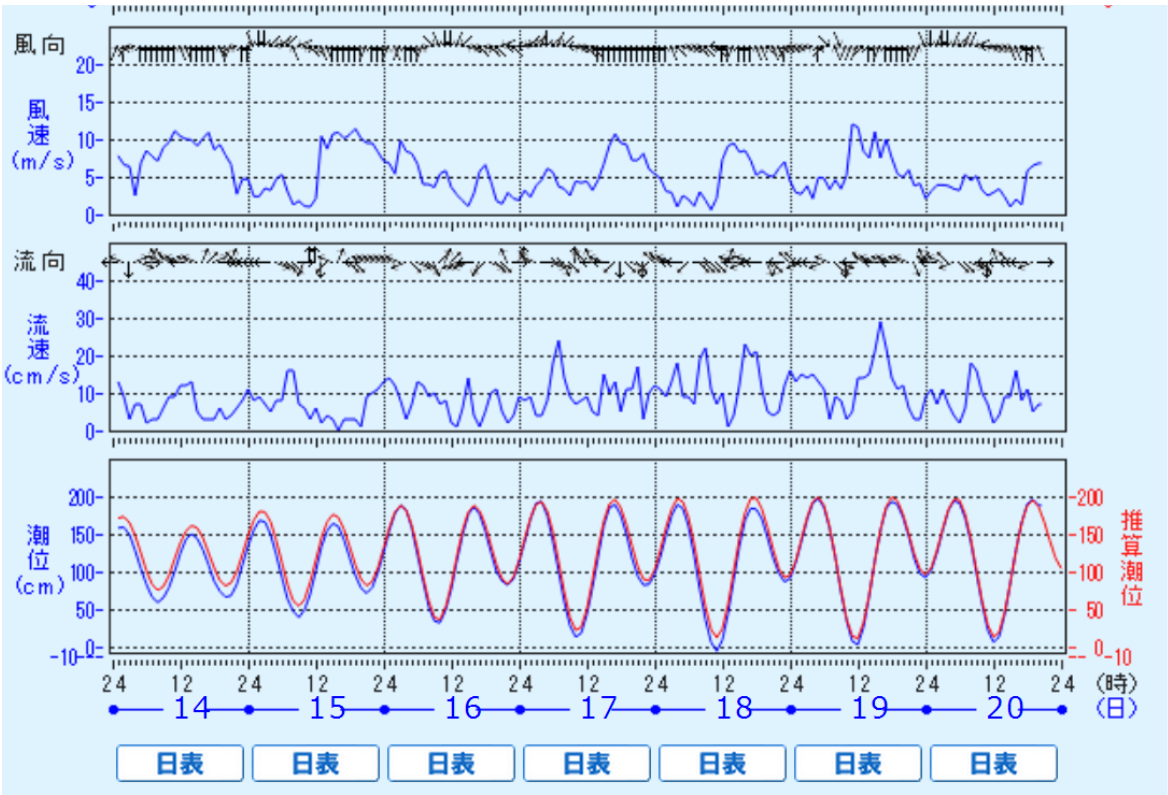

図-1　　観察の範囲と観察ルート

【当日の実測潮位と気象海象の状況】

例年、観察日は気象庁の潮位表を確認して潮がよく引く大潮期にしますが、昨年は晴天にもかかわらず潮が引かず、岸から 400m 程度の所までしか行けませんでした。今年は朝まで雨模様で、潮が引かない可能性があったので、当日朝の潮位実測データも参考として観察会の実施を決めました。

後から潮位実測データ（東京都港湾局）を確認したところ、図 - 2 に示したとおり概ね推算潮位で見込まれたのと同程度に潮が引いておりました。昨年の観察時の実測値とも比べたのですが、今年は昨年よりも 20cm 位、潮が引いておりました。

（実測データは東京港内なので木更津は多少離れておりますが、その傾向は概ね同様と思われます。）




http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/tokyop/topframe.htm

観測期間：2015 年 05 月 14 日～2015 年 05 月 20 日　　観測地点：東京港波浪観測所

図-2　　実測潮位等の掲示変化　（東京都港湾局の観測データ）

木更津漁協の潮干狩り場　2015 年 5 月 19 日 10 時半頃

木更津漁協の潮干狩り場　2015 年 5 月 19 日 13 時半頃

【潮干狩り場】

平日の曇り空では、潮干狩り客もまばらです。

波打ち際にアオサ等の海藻類やゴミの打ち上げはなく、干潟の砂泥質はぬかるむことがなく歩きやすい状態でした。

☆生物の出現状況【岸寄り、護岸付近】　護岸の直近では貝殻が混じる砂地でやや黒みがかっておりました。曇天ではウミニナ等巻貝の活動が低下するのか、あまり見かけませんでした。

【岸から 100m 付近】小さなアサリが少々いました。

【岸から 250m】このあたりから潮干狩りの人々が掘り始めておりました。アサリ、シオフキガイ、キサゴ、アラムシロガイがおりました。コアマモもこのあたりから藻場を形成しています。

【300m～350m、海底耕運】漁業組合にて、耕運機を用いた海底耕運をしていました。深さ 5cm 程度かと思われます。地表面にアサリが転がっていて拾い易くなっていました。割れてしまったのもありましたが、アサリの生育環境を改善するのに必要な作業とのことでした。

アサリも結構いて、アサリの殻の色がカラフルで、地元のアサリという感じがしました。

【岸から 400mあたり、図-1 の No.5 地点】

例年は、潮干狩り客が比較的多い所ですが、昨年は、この辺りまでしか来られませんでした。底質の状況は砂泥質で貝殻片の混入が少ない状態で、今年は酸素が少ない還元状態（砂泥が黒色を呈し、硫化水素臭がする）にあり、アサリの殻が黒っぽい色でした。これまでの経験では、海水に漬けておくとこの黒っぽい色は抜けてアサリらしい色となります。

【岸から 540m】一面にコアマモ藻場が広がります。手網を藻場で引きずると、ハゼ類の稚魚、キサゴ、エビジャコなどが入りました。この辺りから、コアマモ場にアマモが混じりだしました。

【岸から 630m】砂に貝殻が多く混じるようになりました。アサリは小ぶりになりますが、結構いました。マテガイは殻だけでした。

このあたりで、多毛類のミズヒキゴカイを見ました。これまで見落としていたのはなぜかわかりませんが、今年は、結構、目立ちました。

【岸から 700m】干潟を覆う「メジメジ」を確認。ホトトギスガイが側糸により絡まりあって、マット状になるものです。これによりアサリが砂に潜りこめないので、他の貝類にとっては、生育環境が悪化したことになります。キサゴにとってはえさ場なのでしょうか、結構いました。この辺りまで来ても、バカガイが出現しません。シオフキガイも見かけませんでした。

干出した砂地には、小さな穴が多数ありました。アサリ等の棲管の干潟上の痕跡で、「目」と呼ばれるものです。掘ってみるとキサゴも多いので、これらはキサゴの目かもしれません。

コアマモ場だけでなく、アマモ場も形成されております。美しい景色です。

【岸から 900m】このあたりまでくると、貝殻が混じったかたい砂地となり、熊手を使っても生きた貝類がなかなか見つかりません。同じ木更津でも金田の干潟の縁辺部ではバカガイが多くて地表面にコロコロと転がっているのを見かけましたが、木更津漁協の干潟では、今年も見つかりませんでした。

【岸から 950m】沖からゆっくりと波が打ち寄せます。アマモがゆらゆらと揺らいでいます。

☆干潟の生き物たち

アオノリ類

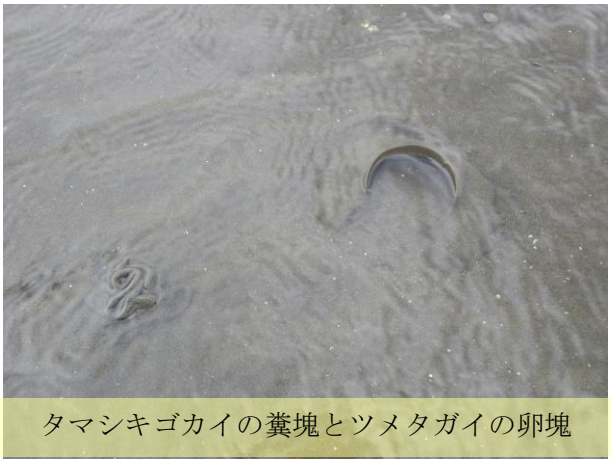
オゴノリ類

マメコブシガニ

側糸でつながる
アサリ

コアマモ

アマモ


タマシキゴカイの糞塊とツメタガイの卵塊

アナアオサ

キサゴ（巻貝）とエビジャコとハゼ類の稚魚

バカガイ

サルボウガイ

ツメタガイ

カガミガイ

イソギンチャク類

イソギンチャク類（掘り出し後）